

平成 31 年 度

編入学生募集要項

(入 学 案 内)
(出 願 書 類 添 付)



独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

National Institute of Technology, Fukui College

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL (0778) 62-8290 (学生課直通)

FAX (0778) 62-2490 (学生課直通)

E-mail nyushi@fukui-nct.ac.jp

目 次

平成31年度編入学生募集要項

1	募集学科，募集人員及び編入学年，日程	1
2	ディプロマ・ポリシー	1
3	カリキュラム・ポリシー	2
4	アドミッション・ポリシー	6
5	出願資格	8
6	出願手続	
(1)	出願受付	8
(2)	出願書類等	9
(3)	出願方法	10
(4)	受検票の交付	10
7	選抜方法等	
(1)	選抜方法	10
(2)	学力検査等の期日及び場所	10
(3)	学力検査等の時間	11
8	受検上の注意	11
9	学力検査科目の出題科目等	12
10	合格者の発表等	13
11	編入学確約書の提出	13
12	受検上の特別な措置や修学上の特別な配慮を必要とする場合の事前相談	13
13	その他	13

入学案内

1	本校の概要	14
2	福井工業高等専門学校使命	14
3	学科案内	15
4	編入学生の受入目的	16
5	教育課程	16
6	課外活動	16
7	編入学時に要する経費	17
8	入学料・授業料の免除及び入学料徴収猶予	
(1)	入学料免除	17
(2)	授業料免除	17
(3)	入学料徴収猶予	17
9	奨学制度	17
10	学生保険制度	18
11	学寮	18
12	卒業後の進路	18
13	入学者選抜に関する個人情報の取扱いについて	18

別表 教育課程表

(1)	一般科目	19
(2)	専門科目	20

出願書類用紙（綴じ込み）

編入学願書，推薦書，写真票・受検票，振込依頼書

平成31年度編入学生募集要項

1 募集学科，募集人員及び編入学年，日程

募 集 学 科	募 集 人 員	編 入 学 年
機 械 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科 電 子 情 報 工 学 科 物 質 工 学 科 環 境 都 市 工 学 科	各学科とも 若干名	第4学年

出 願 期 間	平成30年 8 月 20 日（月）～8月22日（水）
選 抜 期 日	平成30年 9 月 8 日（土）
合 格 者 発 表	平成30年 9 月 14 日（金）
編入学確約書提出	平成30年 9 月 28 日（金）午後 4 時まで

2 ディプロマ・ポリシー

福井高専は、次に掲げる人材を養成することを目的としています。

- 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性）
- 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性）
- 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性）
- 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性）

この目的を達成するために、卒業時点において学生が身につけるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これら能力の獲得と本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位（各学科のカリキュラム表を参照してください。）の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士（工学）と称することを認めます。

福井高専の学生が卒業時点において身につけるべき能力（教育目標）

- RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
- RB 数学とその他の自然科学，及び専門分野におけるものづくり，環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
- RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
- RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。
- RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

機械工学科

機械工学科では、次の内容を教育目標として加えています。

ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者となるため

に、機械技術者として必要な基礎学力、技術革新・高度情報化社会に対応できる能力、実践的能力および論理的思考能力を身に付ける。

電気電子工学科

電気電子工学科では、次の内容を教育目標として加えています。

ものづくりのための基礎的知識や技術を身につけた創造性豊かな電気電子技術者となるために、電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力、幅広い専門分野に適応できる応用力、独創力およびコミュニケーション能力を身につける。

電子情報工学科

電子情報工学科では、次の内容を教育目標として加えています。

情報化社会の基盤となるソフトウェア技術、コンピュータネットワーク技術及びコンピュータ制御技術で、種々の問題を解決できる有能な技術者となるために、次にあげる能力を養成する。

- (1) 電子工学及び情報工学の技術者として必要な基礎的な学力と能力
- (2) 変化するIT社会に対応できる応用力
- (3) 実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力

物質工学科

物質工学科では、次の内容を教育目標として加えています。

物質工学に必要とされる材料工学あるいは生物工学の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな化学技術者を養成する。

環境都市工学科

環境都市工学科では、次の内容を教育目標として加えています。

社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者となるために、建設技術者に必要な基礎的な学力と能力、幅広い専門分野の理論に関する応用力、実験実習や卒業研究を通じた実践力と創造力を身に付ける。

3 カリキュラム・ポリシー

福井高専では、高専機構が定めたコアカリキュラムを学科ごとに適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた卒業生を社会に輩出するために下記の方針に基づいてカリキュラムを作成しています。

1. エンジニアとなるための学習のスタートとして1学年から専門科目を配置するとともに、一般科目との連携を図りながら早期技術者教育を開始する。
2. 学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」教育を実施する。
3. 多様化する現代社会に対応する技術者を養成するために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
4. 創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
5. 実践力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。

6. 国際社会で活躍できる技術者を養成するために、グローバルエンジニア教育を充実させる。

機械工学科

機械工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

- ① 1 学年では、専門基礎Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを修得することで、機械系ものづくり、情報処理に関する導入レベルの能力を身に付ける。
- ② 2 学年では、機械工作法Ⅰ，材料学Ⅰ，C言語基礎と機械工作実習Ⅰ，機械製図を修得することで、機械工学分野におけるものづくりに関する基礎能力を身に付ける。
- ③ 3 学年では、機械工作法Ⅱ，材料学Ⅱ，材料力学Ⅰ，流れ学Ⅰ，C言語応用，電気工学と機械工作実習Ⅱ，機械設計製図Ⅰ，メカトロニクス実習を修得することで、機械工学分野におけるものづくりに関する基礎能力とデザインマインドを身に付ける。
- ④ 4 学年では、材料力学Ⅱ，流れ学Ⅱ，熱力学，工業力学，機械設計法，機構学，センサ工学，電子工学と機械設計製図Ⅱ，知能機械演習を修得することで、機械工学分野におけるものづくりに関する基礎能力とデザインマインド，さらに機械工学実験Ⅰを修得することで，実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。
- ⑤ 5 学年では，伝熱工学，振動工学Ⅰ，自動制御Ⅰ，機械計算力学，CAD・CAEの必修科目と機械系選択科目を修得することで，機械工学分野におけるものづくりに関する基礎能力，さらに卒業研究と機械工学実験Ⅱを修得することで，実践的能力と論理的思考能力，コミュニケーション基礎能力を身に付ける。

電気電子工学科

電気電子工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身につけた創造性豊かな電気電子技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

- ① 1 学年では，ものづくり，情報処理の基礎的な能力を養うために，専門基礎Ⅰ～Ⅲを修得する。
- ② 2 学年では，電気電子工学の導入基礎的な能力を養うために電気回路Ⅰ等を修得し，さらに理論と実践のつながりを学び応用力を身につける。
- ③ 3 学年では，電気電子工学の基礎的な能力を養うために電気回路Ⅱ等を修得し，さらに理論と実践のつながりを学び，応用力，独創力を身につける。
- ④ 4 学年では，電気電子工学の基礎的な能力を養うために電気回路Ⅲ等を修得し，さらに理論と実践のつながりを学び，応用力を身につける。
- ⑤ 5 学年では，電気電子工学を応用する能力を養うために電気回路Ⅳ等を修得し，さらに理論と実践のつながりを学び，応用力を身につけ，卒業研究を通して応用力，独創力，コミュニケーション能力を身につける。

電子情報工学科

電子情報工学科では、上記の方針に則り、ソフトウェア、コンピュータネットワーク及びコンピュータ制御の分野で有能な技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

- ① 1 学年では、専門基礎により、コンピュータに関連するものづくり、及び、情報処理の基礎的な能力を育成する。
- ② 2 学年では、プログラミング基礎、論理回路基礎、電子工学基礎、実験などの科目により、コンピュータに関連する後期中等教育レベルの電子工学および情報工学の基礎を理解する能力を育成する。
- ③ 3 学年では、プログラミング応用、オペレーティングシステム、数値計算、計算機構成論Ⅰ、情報ネットワーク基礎、電子回路Ⅰ、実験などの科目により、ソフトウェアやハードウェアなどの基礎的な電子工学及び情報工学の知識を理解する能力を育成するとともに、その技術を修得する。
- ④ 4 学年では、ソフトウェア工学、情報構造論、計算機構成論Ⅱ、電子回路Ⅱ、創造工学演習、実験などの科目により、ソフトウェアやハードウェアなどの有為な技術者として必要な電子工学及び情報工学の知識を理解する能力を育成するとともに、その技術を修得する。
- ⑤ 5 学年では、制御工学、情報ネットワーク、情報理論、人工知能の他、計算機アーキテクチャ、計算機シミュレーションなどの科目を通して、電子工学及び情報工学に携わる技術者として必要な実践的能力及び創造能力を、幅広く育成する。さらに、実験、卒業研究などを通して、自ら情報を収集、分析、整理して、具体的に、問題を発見する能力、解決方法を導出する能力、評価する能力を深める。

物質工学科

物質工学科は、上記の方針に則り、化学的視点から材料工学あるいは生物工学を学び、化学を人の為に活かせる化学技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

- ① 1 学年では、専門基礎により物質工学に必要な、ものづくりや情報処理の基礎的な能力を育成する。
- ② 2, 3 学年では、工学基礎物理や数理統計学等の数学や基礎科学を学び、さらに幅広い専門基礎能力を育成するために、物質工学の基礎となる有機化学・無機化学・分析化学・物理化学・生化学・化学工学などの物質の本質を理解し、応用化学及び生物化学的手法により新物質を開発する際に必要とされる幅広い基礎能力を育成する。
- ③ 4, 5 学年では、専門性を深化させる科目として物理化学や化学工学及び生化学など、発展的科目として有機合成化学や基礎材料化学及び生命科学などを共通科目として修得し、さらに材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力を育成するために、材料工学コースでは材料化学や材料工学で材料の合成法や物性、生物工学コースでは化学を基礎とした微生物学や分子生物学などを修得して、化学的視点を基に

した，化学品・医薬品・食品等の得意とする専門分野で活躍できる技術者を育成する。

- ④ 1～5学年を通して，実践的能力及びプレゼンテーション能力を育成するために，物質工学実験等により実践力，論理的思考力を育成する。さらに，総括的科目として，5年生の卒業研究では，問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成する。

環境都市工学科

環境都市工学科は，上記の方針に則り，社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者を養成するために，具体的には以下のような科目および設計製図，実験実習を各学年に配して学力や洞察力を段階的に高める教育課程を編成しています。

- ① 1 学年では専門基礎Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを修得することによって，建設技術に関するものづくりや情報処理の基礎的な能力を育む。
- ② 2 学年では測量学，プログラミング，構造力学Ⅰ，建設材料学Ⅰ，建築計画Ⅰを修得することによって，高等教育導入レベルの建設技術に関する基礎的な能力を育む。
- ③ 3 学年では応用測量学，構造力学Ⅱ，建設材料学Ⅱ，水理学Ⅰ，地盤工学Ⅰ，環境衛生工学，環境都市計画論を修得することによって，建設技術に関する基礎的知識を理解する能力を育む。
- ④ 4 学年では構造力学Ⅲ，水理学Ⅱ，地盤工学Ⅱ，建築計画Ⅱ，建築環境Ⅰ，コンクリート構造学Ⅰ，交通工学，施工管理学，計画数理学を修得することによって，建設技術の基礎的知識を理解し，応用する能力を育む。
- ⑤ 5 学年では鋼構造学，構造デザイン，河川水文学，建設複合材料，建設法規，建築設備Ⅰの必修科目や土木分野，建築分野の選択科目を修得することによって，さらに，卒業研究に取り組むことによって建設技術者に必要な実践的かつ創造的な能力を育む。

自然科学系一般科目

自然科学系一般科目では，幅広い教養と専門科目に必要となる数学，理科（物理，化学，生物）の基礎的な知識，技能の育成に加え，生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材の育成のために，具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

低学年（1年～2年）

数学では，数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け，数学的論理を通して思考力，表現力の育成が図れるように科目を配置している。

物理では，身の回りの運動や，波動，電気現象を抽象的に記述できる能力を，化学では，自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を，生物では，生命科学の基本概念を理解できる能力を養成する。

保健体育では，種々のスポーツを各自の能力に応じて実施できる能力の育成に取り組んでいる。

高学年（3～5年）

数学では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力が育成できるように学習内容を配置している。

物理では、物理現象の基礎的な知識を習得し、工学との関連性を理解できる能力を養成する。

保健体育では、自己の体力を的確にとらえ、積極的に運動実践ができる能力、生涯における健康管理能力一環として生活習慣病について理解できる能力の育成に取り組んでいる。

人文社会科学系一般科目

人文社会科学系一般科目では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けさせるために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成しています。

低学年（1～2年）

国語科では、日本語の小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できるよう、学習内容を配置している。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を養成する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力の育成に取り組んでいる。

高学年（3～5年）

国語科では、日本語文章表現に関する基礎的な知識を理解し、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得、さらに意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な視野を広げることができるよう、科目を配置している。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を養成する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力の養成に取り組んでいる。

4 アドミッション・ポリシー

求める学生像（本科共通）

福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

各学科の求める学生像

機械工学科

機械工学科では、さらに次のような人を求めています。

- (1) 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムや、環境、福祉、宇宙工学などの分野に興味がある人
- (2) サイエンスを学び、ものづくりに創造性を発揮して、人間社会に貢献したい人
- (3) 機械を創る材料、動かすエネルギー、制御する情報など幅広い技術を身に付けたい人

電気電子工学科

電気電子工学科では、さらに次のような人を求めています。

- (1) 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人
- (2) ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
- (3) 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人

電子情報工学科

電子情報工学科では、さらに次のような人を求めています。

- (1) コンピュータの構造や仕組みに興味があり、高度なプログラミング技術を習得したい人
- (2) ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
- (3) 未来のIT機器の開発をやってみたい人

物質工学科

物質工学科では、さらに次のような人を求めています。

- (1) 化学と生物の世界へ第一歩を踏み出したい人
- (2) 地球に優しいものづくりをしたい人
- (3) バイオの技術で社会に貢献したい人

環境都市工学科

環境都市工学科では、さらに次のような人を求めています。

- (1) 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
- (2) 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
- (3) 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人

編入学者へのアドミッション・ポリシー

本校準学士課程への編入学者に関しては上記の他に以下のポリシーを設けます。

- (1) 高等学校において理数系または工学の基礎を習得した人、または教育機関等において同様の学力を獲得したと認められる人
- (2) 希望する学科の教育目標・教育課程を十分に理解し、自主的・積極的に学業に取り組む姿勢を有する人

入学者選抜の基本方針

- (1) 推薦による選抜
推薦書、調査書、作文及び面接の結果を総合的に評価して選抜します。
- (2) 学力検査による選抜
調査書及び学力検査の結果を総合的に評価して選抜します。
学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とします。

(3) 編入学生の選抜

調査書、学力検査、作文及び面接の結果を総合的に評価して選抜します。

学力検査は、専門科目、数学、英語の3教科による試験とします。

5 出願資格

次のいずれかの条件を満たす者で、在籍(出身)学校長が推薦する者とします。

- (1) 高等学校および中等教育学校を卒業した者（平成31年3月卒業見込みの者を含む）
- (2) 外国において12年の教育課程を修了した者（平成31年3月までに修了見込みの者を含む）
- (3) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者（高等学校卒業程度認定試験に合格した者）

※ 出願資格（2）又は（3）で出願しようとする者は、出願資格等の確認をしますので、7月27日（金）までに本校入学試験係まで電話等により照会してください。

ただし、出願できる学科と在籍(出身)学校における所属科との関係は、次のとおりです。

学 科	在籍（出身）学校における所属科
機 械 工 学 科	機械工学に関する科
電 気 電 子 工 学 科	電気電子工学に関する科
電 子 情 報 工 学 科	所属科を問わない。
物 質 工 学 科	所属科を問わない。
環 境 都 市 工 学 科	土木工学又は建築学に関する科

6 出願手続

(1) 出願受付

受 付 期 間	平成30年8月20日（月）から平成30年8月22日（水）まで
受 付 時 間	午前9時から午後4時まで （郵送の場合は、8月22日（水）午後4時までに必着のこと。）
受 付 場 所	独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校 学生課入学試験係 〒916-8507 鯖江市下司町

(2) 出願書類等

出 願 書 類 等	摘 要
編 入 学 願 書	所定の用紙により，必要事項を記入してください。
推 薦 書	所定の用紙により，在籍(出身)学校長が作成したものとします。
調 査 書	在籍(出身)学校が定める様式により，在籍(出身)学校長が作成したものとします。
卒業証明書又は 卒業見込証明書	在籍(出身)学校が定める様式とします。
写真票・受検票	所定の用紙により，必要事項を本人が記入し，写真票の所定欄に写真を貼ってください。 写真は，平成30年4月以降に撮影したもので，上半身脱帽，正面向き，縦6cm，横4.5cmのものを貼ってください。
検 定 料	16,500円 ア 本校所定の振込依頼書により，志願者本人の名義で金融機関の窓口から振り込んでください。入学願書の検定料振込受付証明書（貼付場所）に検定料振込受付証明書を貼付してください。なお，振込時に別途必要な 振込手数料は入学志願者本人の負担 となります。 イ 振込受取書と検定料振込受付証明書は，金融機関の受領印があることを確認のうえ受け取ってください。 ウ 振込受取書は本人の控えとして，受検票が手元に届くまで大切に保管してください。
受検票送付用封筒	郵送で出願する場合は ，長形3号(120mm× 235mm)の封筒に，志願者の住所，郵便番号及び氏名を記入し，362円分の切手(速達料金分)を貼ってください。

※ 受理した出願書類及び検定料は返還しません。

ただし，次の場合は検定料の返還請求ができます。

- (1) 検定料を払い込んだが，出願しなかった（出願書類を提出しなかった又は受理されなかった）場合
- (2) 検定料を誤って二重に払い込んだ場合

・返還請求の方法

①返還請求の理由，②氏名（ふりがな），③現住所，④連絡先電話番号，⑤振込口座の金融機関名，支店名，預金種別，口座番号，口座名義(志願者本人)を明記した「検定料返還請求書」（様式自由）を作成し，「振込受取書」を添付して下記送付先へ速やかに

郵送してください。（封筒には「返還請求書在中」と記入してください。）

返還請求期限 平成31年2月28日（木）17時必着

送付先 〒916-8507 鯖江市下司町 独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校総務課財務係

(3) 出願方法

出願者は、前記(2)の出願書類等を**在籍（出身）学校を経由して提出**してください。

なお、**郵送の場合**は、封筒の表に「編入学願書在中」と朱書きし、必ず「書留郵便」にしてください。

(4) 受検票の交付

① 出願書類等を持参により受理したときは、その場で交付します。

② 出願書類等を郵送により受理したときは、受検票送付用封筒により郵送します。

なお、8月31日（金）までに受検票等が届かないときは、学生課入学試験係に照会してください。

7 選抜方法等

(1) 選抜方法

編入学生の選抜は、学力検査（作文を含む。）、調査書及び面接の結果を総合して判定します。

(2) 学力検査等の期日及び場所

期 日	平成30年9月8日（土）
場 所	福井工業高等専門学校 鯖江市下司町 （裏表紙の「本校の位置と利用交通機関等」参照）

(3) 学力検査等の時間

専門科目	数 学	英 語	作 文	面 接
9:00～10:40	11:00～12:20	13:10～14:00	14:15～14:55	15:25～

8 受検上の注意

- (1) 当日は、午前8時30分までに、学力検査室(専攻科棟)に集合してください。
- (2) 検査開始後、20分を経過した場合は、原則として受検できません。また、1科目でも受検しないと受検資格を失います。
- (3) 受検者は、受検票、筆記用具、昼食を持参してください。
なお、受検票を紛失した場合は、必ず受付に届け出て指示を受けてください。
- (4) 上履きは、必要ありません。

9 学力検査科目の出題科目等

学力検査科目等		出 題 科 目	出 題 範 囲
一 般 科 目	数 学	数 学 I 数 学 II 数 学 B	データの分析は除く。 全範囲 ベクトルと数列のみ
	英 語	コミュニケーション英語 I	全範囲
専 門 科 目	機 械 工 学 科	機 械 設 計	機械に働く力と運動，機械に与えられたエネルギーと仕事及び動力の関係，材料の強さ，機械要素と装置
		機 械 工 作 製 図	機械材料，各種の工作法 製図の基礎，機械分野の製図・設計製図
	電 気 電 子 工 学 科	電 気 基 礎	直流回路，電気と磁気，静電気，電磁誘導，交流回路(三相交流を除く。)
		電 子 回 路 物理基礎・物理	電子回路 電気・電子に関すること。
	出題範囲の中から選択解答する。		
	電 子 情 報 工 学 科	情報技術基礎 電 気 基 礎 物 理	ハードウェア，ソフトウェア，プログラミング } 直流回路，磁気と静電気，交流回路
		出題範囲の中から選択解答する。	
	物 質 工 学 科	物 理 基 礎 物 理 化 学 基 礎 化 学	全範囲 電気と磁気を除く。 全範囲 全範囲
目	環 境 都 市 工 学 科	測 量 構 造 力 学	写真測量を除く。 構造物と力，梁の外力，梁の内力，梁に生じる応力
		水理学・土質力学 建 築 計 画	水の物理的性質，静水圧，水の流れ，管水路，開水路，土の基本的性質，土中の水の流れ，地中の応力，土の圧密 建築と環境，住宅の計画，建築の移り変わり
	水理学・土質力学と建築計画については，どちらかを選択解答する。		
作 文		課題を与える。	

(備考) 専門科目で，電卓が必要な場合は貸与します(CASIO fx-260A)。

10 合格者の発表等

- (1) 合格者の発表は、平成30年9月14日（金）午後1時に、本校に掲示するとともに、本校ホームページ上でも発表します。（<https://www.fukui-nct.ac.jp/>）
- (2) 在籍（出身）学校長には、合格者の合格通知書を添えて、同日付けで郵送により選抜の結果を通知します。

11 編入学確約書の提出

合格者は、在籍（出身）学校長の確認を得て、編入学確約書を平成30年9月28日（金）午後4時までに学生課入学試験係へ提出してください。

なお、期限までに、編入学確約書を提出しない場合は、本校に入学する意志がないものとして取り扱います。

12 受検上の特別な措置や修学上の特別な配慮を必要とする場合の事前相談

心身に障がいがある場合等、解答方法や座席配置等について、受検上特別な措置が必要な場合、また入学後、修学上特別な配慮を必要とする入学志願者は、出願前に本校学生課入学試験係へご相談ください。

なお、事前相談後、健康診断書等を提出していただく場合がありますので、ご了承ください。

13 その他

- (1) 提出した書類の記載事項の変更は、認めません。
- (2) 提出した書類に事実と相違した記載があった場合は、入学後においても入学許可を取り消すことがあります。

入 学 案 内

1 本校の概要

本校は中学校卒業生を受入れ、早期から5年一貫の技術教育を行い、多様化、グローバル化した社会に貢献できる実践的技術者を育成する国立の高等教育機関です。本校では技術教育を行って技術立国を担い日本の未来を拓く有能なエンジニアを養成します。

本校卒業時には「準学士」と称することができます。さらに高度な科学技術の教育と密度の濃い研究指導を希望する学生のために、専攻科が設置されており、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の認定を経て、「学士（工学）」の学位を取得することができます。

本校では「環境生産システム工学」教育プログラムが編成されており、このプログラムを本科4、5年と本校専攻科で履修することにより、社会の要求水準を満たした教育を受けたことが証明されます。このプログラムは平成17年5月に日本技術者教育認定機構(JABEE)より認定を受けました。

2 福井工業高等専門学校使命

(1) 基本理念

優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する。

(2) 養成すべき人材像

- ・地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者(人間性)
- ・科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者(専門性)
- ・調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者(国際性)
- ・幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者(創造性)

(3) 教育方針

- ・技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
- ・個性を伸ばし、独創的能力の開発に努力する。
- ・教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する。
- ・健康の増進に努め、身体的精神的に^{きょうじん}強靱な耐久力を育成する。
- ・規律ある日常生活に徹し、明朗、^{かつたつ}闊達な資性の^{かんよう}涵養を図る。

各学科の目的

機械工学科

- (1) 機械技術者として必要な基礎学力の育成
- (2) 技術革新，高度情報化社会に対応できる能力の育成
- (3) 創造性，実践的能力等の育成及び人間力の育成

電気電子工学科

- (1) 電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成
- (2) 幅広い専門分野に適応できる応用力の育成
- (3) 独創力及びコミュニケーション能力の育成

電子情報工学科

- (1) 電子工学及び情報工学の技術者として必要な基礎的な学力と能力の育成
- (2) 変化する I T 社会に対応できる応用力の育成
- (3) 実験実習や卒業研究を通じた実践的能力や創造能力の育成

物質工学科

- (1) 物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成
- (2) 材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成
- (3) 実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成

環境都市工学科

- (1) 建設技術者に必要な基礎的な学力と能力の育成
- (2) 幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成
- (3) 実験実習や卒業研究を通じた実践力と創造力の育成

3 学科案内

本校は，次の5学科と一般科目教室で構成されています。

機械工学科

機械のしくみを学び，エンジニアとしての総合力を育成します。ロボット制御，メカトロニクスなど I T も積極的に活用します。

電気電子工学科

情報・通信から光・電子デバイス，材料，エネルギーまで幅広い知識を学び，「地球にやさしく，人にやさしい21世紀」をつくる技術者を育成します。

電子情報工学科

今や社会ではなくてはならない「情報」。これを活用するために必要なソフトウェア・ハードウェア両面をサポートできるエンジニアを育成します。

物質工学科

産業の基になる素材「物質」を化学の視点で学び、光ファイバーや超伝導体、半導体、バイオテクノロジーなど化学を人のために活かせる技術者を育成します。

環境都市工学科

土木構造物や建築物のデザインや環境計測の方法などを学び、自然と調和した、安全で住みやすいまちづくりができる技術者を育成します。

一般科目教室

高等学校での教育課程に、さらに大学の教養課程と同レベルの教育内容をプラスしたカリキュラムが組まれています。国語・数学・英語・理科・社会の5教科、保健体育はもちろんのこと、外国語は英語だけではなくドイツ語や中国語まで、情操教育として音楽や美術、さらに哲学や法学など、その分野は多岐にわたっています。

4 編入学生の受入目的

高等専門学校は、大学と同様の高等教育機関で、5年間の一貫教育により、深く専門の学芸を教授し、豊かな教養と高度な専門技術を身に付けた技術者を養成することを目的としています。

本校の編入学制度は、こうした高等専門学校設立の趣旨に鑑み、高度の技術習得の機会を高等学校等の卒業者にも等しく与えようとするものです。

5 教育課程

教育課程は、一般科目（各学科共通）及び専門科目に分かれ、各学科ごとの授業科目、単位等は、別表のとおりであり、編入学生は、第3学年までの単位は修得したものとし、第4・5学年の授業科目を履修します。

なお、別表の教育課程表は平成31年度編入学生対象のもので、改訂されることがあります。

6 課外活動

健全な精神と健康な肉体を養い、更に豊かな人間性を養い、楽しい学生生活を送るため、課外活動を奨励しています。

7 編入学時に要する経費

費 目		金 額	備 考
入 学 料		84,600円(予定額)	
授 業 料		117,300円(予定額)	前期分(年額 234,600円)
その他の必要経費	教科書代等	35,000円	概算
	日本スポーツ振興センター災害共済給付掛金	1,520円	年額
	学生会会費	7,000円	年額
	諸経費	22,000円	前期分(後期以降 12,000円)

(注) 規則が改正された場合は、金額が変更になることがあります。
 在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

8 入学科・授業料の免除及び入学科徴収猶予

(1) 入学科免除

入学前1年以内において、入学者の学資を主として負担している者（学資負担者）が死亡した場合、入学者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合又はその他校長が相当と認める事由がある場合により入学科の納付が著しく困難であると認められる場合には、選考の上、入学科の全額又は半額を免除することがあります。

(2) 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、又は入学前1年以内において、学資負担者が死亡した場合、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け授業料の納付が著しく困難であると認められる場合には、選考の上、授業料の全額又は半額を免除することがあります。

(3) 入学科徴収猶予

経済的理由により納付期限までに入学科の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、入学前1年以内において、学資負担者が死亡した場合、学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難であると認められる場合又はその他やむを得ない事由により納付期限までに納付が困難であると認められる場合には、選考の上、入学科の徴収を猶予することがあります。

9 奨学制度

日本学生支援機構の規定に基づき、学業・人物ともに優れ、かつ健康であって学資の支弁が困難と認められる者に対し、本人の申請に基づき選考の上、日本学生支援機構から奨学金が貸与されます。

〈参考〉貸与月額（平成29年度編入学生実績）

第一種（無利子）	自 宅 通 学	45,000円
	自 宅 外 通 学	51,000円
第二種（有利子）	30,000円・50,000円・80,000円・100,000円・120,000円の 内から貸与希望金額を選択	

なお、このほか地方公共団体や各奨学育英団体等の奨学金制度もあります。

10 学生保険制度

授業又は課外活動中の不測の事故に対し、医療費、災害見舞金等の給付を受ける日本スポーツ振興センター災害共済があります。これには、本校の学生は全員加入しています。

11 学 寮

自宅からの通学が困難な者のため、定員248人（うち女子55人、留学生16人）の学寮が校内に設置されており、申請に基づき選考の上、入寮が許可されます。

なお、入寮経費は次のとおりです。

費 目		金 額	備 考
寄 宿 料（1人室）		800円	月額（相部屋 700円）
その他の 必要経費	寮 費（光熱水費等）	6,000円	月額
	食 費	24,000円	月額（概算）
	エアコンリース代	1,900円	月額
	食 器 代	4,400円	入寮時のみ
	寮生会費	2,000円	年額

（注）個人で使用した電気料は別途必要となります。

12 卒業後の進路

（1）就 職

卒業生は、産業界、官公庁等の広い分野において、大学卒業者と同一ような職種に従事し、優れた技術者として高い評価を得て活躍しています。

（2）進 学

進学を希望する者に対しては、本校を含めて高等専門学校に設置されている専攻科（本科卒業後の2年課程）への進学や大学の3年次への編入学の制度があり、本校卒業生もこれらの制度を利用して、最近3か年では、193名の者が進学しています。

なお、平成29年度卒業の進学者数は59名で、進学先は次のとおりです。

福井工業高等専門学校専攻科、早稲田大学、東京農工大学、千葉大学、長岡技術科学大学、新潟大学、富山大学、金沢大学、福井大学、岐阜大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学、和歌山大学、京都工芸繊維大学、岡山大学、九州大学、鹿児島大学、富山県立大学

13 入学者選抜に関する個人情報の取扱いについて

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜や本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究のために利用するとともに、合格者に対しては、次の目的のためにも利用します。

- （1）入学後の教育・指導
- （2）入学料、授業料の免除申請の審査
- （3）奨学金申請の審査
- （4）本校教育後援会及び同窓会の事務

教 育 課 程 表

*教育課程表は平成31年度編入学生対象のもので、改訂されることもあります。

(1) 一 般 科 目

各 学 科 共 通

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国語	国語	6	2	2	2			
		国語表現	2				2		
	社会	倫理社会	2		2				
		政治経済	2			2			
		法学	1					1	
	会	歴史	4	2	2				
		地理	2	2					
		基礎解析 A	4	4					
	数	基礎解析 B	3	3					
		解析 I	4		4				
		線形代数	2		2				
		解析 II	3			3			
		解析 III	2				2		
	理科	物理	5	2	3				
		化学	4	2	2				
		生物	1	1					
	保健体育		10	4	2	2	2		
	芸術	美術	1		1				
		音楽	1	1					
	外国語	英語 I	4	4					
		コミュニケーション	2	2					
		英語 II	4		4				
		英語 III	4			4			
		英語 IV	2				2		
		英語 V	2					2	
	修得単位計		77	29	24	13	8	3	
選択必修科目	ドイツ語		4				2	2	同一科目で4単位修得
	中国語		4				2	2	
	言語文化特講		1					1	前期開講科目から1単位、後期開講科目から1単位の2単位（2科目）修得
	日本語表現演習		1					1	
	日本文学論		1					1	
	哲学		1					1	
	歴史学特講		1					1	
	数学特講		1					1	
	英語特講		1					1	
	修得単位計		6				2	4	
	修得単位合計 (卒業認定必要単位数)		83	29	24	13	10	7	

(2) 専門科目

機械工学科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考		
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年			
必修科目	数理統計学	2			2			7単位中5単位以上修得	群別に修得すること	
	応用数学	2				2				
	工学基礎物理Ⅰ	2			2					
	工学基礎物理Ⅱ	2				2				
	専門基礎Ⅰ	2	2							
	専門基礎Ⅱ	2	2							
	専門基礎Ⅲ	2	2							
	C言語基礎	1		1						
	C言語応用	1			1					
	機械計算力学	1					1			
	材料学Ⅰ	1		1						
	*材料学Ⅱ	2			2					
	機械工作法Ⅰ	2		2						
	機械工作法Ⅱ	1			1					
	材料力学Ⅰ	2			2					
	材料力学Ⅱ	2				2				
	熱力学	2				2				
	*伝熱工学	1					1			
	流れ学Ⅰ	1			1					
	流れ学Ⅱ	2				2				
	工業力学	2				2				
	機構学	1				1				
	機械設計法	2				2				
	*自動制御Ⅰ	1					1			
	振動工学Ⅰ	1					1			
	*センサ工学	1				1				
	電気工学	2			2					
	電子工学	2				2				
	機械製図	4		4						
	機械設計製図Ⅰ	3			3					
	機械設計製図Ⅱ	2				2				
	CAD・CAE	1					1			
機械工作実習Ⅰ	4		4							
機械工作実習Ⅱ	3			3						
メカトロニクス実習	1			1						
知能機械演習	2				2					
機械工学実験Ⅰ	2				2					
機械工学実験Ⅱ	2					2				
卒業研究	9					9				
修 得 単 位 計		78	6	12	20	24	16			
選択科目	材料力学Ⅲ	1					1	7単位中5単位以上修得	群別に修得すること	
	*熱機関	1					1			
	*流体機械	1					1			
	自動制御Ⅱ	1					1			
	振動工学Ⅱ	1					1			
	システム工学	1					1			
	*材料科学	1					1			
修 得 単 位 計		5以上					5以上			
学際カリキュラム	必修科目	プロジェクト演習	1				1	群別に修得すること	群別に修得すること	
	環境・エネルギー群	熱流体エネルギー概論	1			1				2単位以上修得すること
		電力エネルギー工学	1			1				
		電磁場エネルギー基礎	1				1			
		環境科学	1				1			
		環境保全工学	1			1				
	情報・制御群	#ロボットシステム	1				1			2単位以上修得すること
		電子計測制御	1				1			
		情報・制御基礎	1			1				
		コンピュータ化学	1			1				
	材料科学群	空間情報工学	1			1				2単位以上修得すること
		機械材料	1				1			
		電気電子材料	1			1				
		センサ材料工学	1				1			
		有機・高分子材料	1			1				
	建設材料		1				1			
	修 得 単 位 計		2以上			2以上				
	修 得 単 位 計		3以上			3以上				
修得単位合計		学際カリキュラム除く	86以上	6	12	20以上	24以上	21以上		
		学際カリキュラム含む				68以上				

*：学際連携科目 #：専門選択科目に単位振替可能 （単位の付与は学際カリキュラム科目又は専門選択科目のいずれか一方とする）

電 気 電 子 工 学 科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必修科目	数理統計学	2			2				
	応用数学	2				2			
	工学基礎物理Ⅰ	2			2				
	工学基礎物理Ⅱ	2				2			
	専門基礎Ⅰ	2	2						
	専門基礎Ⅱ	2	2						
	専門基礎Ⅲ	2	2						
	電気磁気学Ⅰ	2		2					
	電気磁気学Ⅱ	2			2				
	電気磁気学Ⅲ	1				1			
	電気数学	1		1					
	電気回路Ⅰ	2		2					
	電気回路Ⅱ	2			2				
	電気回路Ⅲ	2				2			
	電気回路Ⅳ	2					2		
	電気回路演習	2		2					
	計測工学	2			2				
	電子工学Ⅰ	2			2				
	*電子工学Ⅱ	1				1			
	*電子工学Ⅲ	1					1		
	電子回路Ⅰ	1			1				
	電子回路Ⅱ	2				2			
	情報処理Ⅰ	1		1					
	情報処理Ⅱ	1			1				
	情報処理システム論Ⅰ	2			2				
	*情報処理システム論Ⅱ	2				2			
	情報通信工学Ⅰ	2				2			
	電気機器	2				2			
	発変電工学	2				2			
	*電力系統工学	1					1		
	パワーエレクトロニクス	1					1		
	制御工学Ⅰ	1				1			
	制御工学Ⅱ	1					1		
機械工学概論Ⅰ	1				1				
機械工学概論Ⅱ	2					2			
電子創造工学	2			2					
電気電子工学実験Ⅰ	2		2						
電気電子工学実験Ⅱ	2			2					
電気電子工学実験Ⅲ	4				4				
電気電子工学実験Ⅳ	2					2			
卒業研究	9					9			
修 得 単 位 計		79	6	10	20	24	19		
選択科目	*電気電子応用工学	1					1	6単位中4単位 以上修得	
	*情報通信工学Ⅱ	1					1		
	*現代制御工学	1					1		
	*電気電子設計	1					1		
	*電気情報工学	1					1		
	技術者基礎	1					1		
	修 得 単 位 計	4以上					4以上		
学際カリキュラム	必修科目	プロジェクト演習	1				1	群別に修得すること	
	環境・エネルギー群	熱流体エネルギー概論	1		1				
		電力エネルギー工学	1		1				
		電磁場エネルギー基礎	1				1		
		環境科学	1				1		
		環境保全工学	1			1			
	情報・制御群	ロボットシステム	1				1		
		#電子計測制御	1				1		
		情報・制御基礎	1		1				
		コンピュータ化学	1			1			
		空間情報工学	1		1				
	材料科学群	機械材料	1			1			
		電気電子材料	1		1				
		センサ材料工学	1				1		
		有機・高分子材料	1		1				
		建設材料	1				1		
	修 得 単 位 計		2以上			2以上			
	修 得 単 位 計		3以上			3以上			
	修得単位合計	学際カリキュラム除く	86以上	6	10	20以上	24以上		23以上
		学際カリキュラム含む				70以上			

*：学際連携科目 #：専門選択科目に単位振替可能 （単位の付与は学際カリキュラム科目又は専門選択科目のいずれか一方とする）

電子情報工学科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必修科目	数理統計学	2			2				
	応用数学	2				2			
	工学基礎物理Ⅰ	2			2				
	工学基礎物理Ⅱ	2				2			
	専門基礎Ⅰ	2	2						
	専門基礎Ⅱ	2	2						
	専門基礎Ⅲ	2	2						
	機械工学概論	2				2			
	電子工学基礎	2		2					
	電気回路	2			2				
	信号解析基礎	1				1			
	電子回路Ⅰ	2			2				
	電子回路Ⅱ	2				2			
	電気磁気学Ⅰ	1			1				
	電気磁気学Ⅱ	2				2			
	数値計算	1			1				
	電子材料・デバイス	2				2			
	工業英語	1					1		
	情報工学基礎	1		1					
	情報基礎演習	1		1					
	プログラミング基礎	2		2					
	プログラミング応用	2			2				
	情報ネットワーク基礎	1			1				
	論理回路	1		1					
	計算機構成論Ⅰ	2			2				
	計算機構成論Ⅱ	1				1			
	オペレーティングシステム	2			2				
	創造工学演習	2				2			
	ソフトウェア工学	1				1			
	情報構造論	2				2			
	制御工学	2					2		
	通信システム	1					1		
	情報ネットワーク	1					1		
	情報理論Ⅰ	1				1			
	情報理論Ⅱ	1					1		
	電子情報工学実験Ⅰ	4		4					
	電子情報工学実験Ⅱ	4			4				
	電子情報工学実験Ⅲ	4				4			
	電子情報工学実験Ⅳ	2					2		
	卒業研究	9					9		
	修得単位計	79	6	11	21	24	17		
選択科目	*情報数学	1					1	8単位中4単位以上修得	
	*人工知能	1					1		
	*計算機アーキテクチャ	1					1		
	*デジタル信号処理	1					1		
	*システム工学	1					1		
	*計算機シミュレーション	1					1		
	*認知科学	1					1		
	*データベース	1					1		
	修得単位計	4以上					4以上		
学際カリキュラム	必修科目	プロジェクト演習	1			1		群別に修得すること	
	環境・エネルギー群	熱流体エネルギー概論	1		1				
		電力エネルギー工学	1		1				
		#電磁場エネルギー基礎	1				1		
		環境科学	1				1		
		環境保全工学	1			1			
	情報・制御群	ロボットシステム	1				1		
		電子計測制御	1				1		
		情報・制御基礎	1		1				
		コンピュータ化学	1			1			
	材料科学群	空間情報工学	1		1				
		機械材料	1			1			
		電気電子材料	1		1				
		#センサ材料工学	1				1		
		有機・高分子材料	1		1				
		建設材料	1				1		
		修得単位計	2以上			2以上			
		修得単位計	3以上			3以上			
	修得単位合計	学際カリキュラム除く	86以上	6	11	21以上	24以上		
		学際カリキュラム含む				69以上	21以上		

*：学際連携科目 #：専門選択科目に単位振替可能 （単位の付与は学際カリキュラム科目又は専門選択科目のいずれか一方とする）

物質工学科

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考	
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必修科目	科 目	数理統計学	2			2			コース別に修得すること	
		応用数学	1				1			
		工学基礎物理Ⅰ	2			2				
		工学基礎物理Ⅱ	2				2			
		専門基礎Ⅰ	2	2						
		専門基礎Ⅱ	2	2						
		専門基礎Ⅲ	2	2						
		基礎工学概論	1				1			
		工業英語	1				1			
		分析化学Ⅰ	1		1					
		分析化学Ⅱ	1			1				
		機器分析	2				2			
		無機化学Ⅰ	2		2					
		無機化学Ⅱ	1			1				
		無機化学Ⅲ	1					1		
		基礎材料化学	1				1			
		有機化学Ⅰ	2		2					
		有機化学Ⅱ	2			2				
		高分子化学	1			1				
		有機合成化学	1					1		
		物理化学Ⅰ	2			2				
		物理化学Ⅱ	2				2			
		*物理化学Ⅲ	2					2		
		化学工学Ⅰ	2			2				
		化学工学Ⅱ	2				2			
		*化学工学Ⅲ	2					2		
		生化学Ⅰ	2			2				
		生化学Ⅱ	2				2			
	生命科学	1					1			
	情報化学Ⅰ	2		2						
	*情報化学Ⅱ	2				2				
	品質管理	1					1			
	物質工学実験Ⅰ	5		5						
	物質工学実験Ⅱ	4			4					
	卒業研究	8					8			
コース	生物学コース	微生物学	2				2			
		食品科学	2					2		
		分子生物学	2					2		
		生物工学実験Ⅰ	4				4			
	材料工学コース	生物工学実験Ⅱ	2					2		
		材料化学	2				2			
		材料工学	2					2		
		反応工学	2					2		
コース	材料工学実験Ⅰ	4				4				
	材料工学実験Ⅱ	2					2			
	修 得 単 位 計		81	6	12	19	22	22		
	選択科目	共通	*創薬化学	1					1	コース別に、4単位（共通及びコース別開設単位数の合計）中2単位以上修得すること。
*食料生産工学概論			1					1		
学生工学科		生理学	1					1		
		栄養化学	1					1		
学材料工学科		応用電気化学	1					1		
		高分子材料設計	1					1		
修 得 単 位 計		2以上					2以上			
学際カリキュラム	必修科目	プロジェクト演習	1				1		群別に修得すること	
		環境・エネルギー群	熱流体エネルギー概論	1			1			
	電力エネルギー工学		1			1				
	電磁場エネルギー基礎		1					1		
	環境科学		1					1		
	環境保全工学		1				1			
	情報・制御群	ロボットシステム	1					1		
		電子計測制御	1					1		
		情報・制御基礎	1			1				
		コンピュータ化学	1				1			
	材料科学群	空間情報工学	1			1				
		機械材料	1				1			
		電気電子材料	1			1				
		センサ材料工学	1					1		
		有機・高分子材料	1			1				
	コース	建設材料	1					1		
		修 得 単 位 計		2以上				2以上		
		修得単位計		3以上				3以上		
		学際カリキュラム除く学際カリキュラム含む		86以上	6	12	19以上	22以上		24以上
	修得単位合計					68以上				

*：学際連携科目 #：専門選択科目に単位振替可能（単位の付与は学際カリキュラム科目又は専門選択科目のいずれか一方とする）

環境都市工学科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必修科目	数理統計学	2			2				
	応用数学	2				2			
	工学基礎物理Ⅰ	2			2				
	工学基礎物理Ⅱ	2				2			
	専門基礎Ⅰ	2	2						
	専門基礎Ⅱ	2	2						
	専門基礎Ⅲ	2	2						
	プログラミング	1		1					
	数値解析	1						1	
	構造力学Ⅰ	2		2					
	構造力学Ⅱ	2			2				
	構造力学Ⅲ	2				2			
	鋼構造学	2						2	
	コンクリート構造学Ⅰ	2				2			
	建設材料学Ⅰ	1		1					
	建設材料学Ⅱ	1			1				
	建設複合材料	1						1	
	水理学Ⅰ	2			2				
	水理学Ⅱ	2				2			
	河川水文学	1						1	
	地盤工学Ⅰ	2			2				
	地盤工学Ⅱ	2				2			
	環境衛生工学	2			2				
	建築環境Ⅰ	1				1			
	建築設備Ⅰ	1						1	
	測量学	2		2					
	応用測量学	1			1				
	環境都市計画論	2			2				
	計画数理学	1				1			
	交通工学	2				2			
	施工管理学	2				2			
	建設法規	1						1	
	構造デザイン	1						1	
	建築計画Ⅰ	1		1					
	建築計画Ⅱ	1				1			
	環境都市工学設計製図Ⅰ	2		2					
	環境都市工学設計製図Ⅱ	2			2				
	環境都市工学設計製図Ⅲ	2				2			
	環境都市工学設計製図Ⅳ	2						2	
	環境都市工学実験実習Ⅰ	2		2					
	環境都市工学実験実習Ⅱ	2			2				
	環境都市工学実験実習Ⅲ	2				2			
	卒業研究	9						9	
	修得単位計	79	6	11	20	23	19		
選択科目	*地盤防災工学	1						1	
	*地震工学	1						1	
	*コンクリート構造学Ⅱ	1						1	
	*地域都市計画	1						1	
	*海岸工学	1						1	
	*メンテナンス工学	1						1	
	建築史	1						1	
	建築意匠	1						1	
	*建築環境Ⅱ	1						1	
	*建築設備Ⅱ	1						1	
	環境都市工学設計製図Ⅴ	1						1	
	修得単位計	4以上						4以上	
学際カリキュラム	必修科目	プロジェクト演習	1				1		
	環境・エネルギー群	環境熱流体エネルギー概論	1		1				
		電力エネルギー工学	1		1				
		電磁場エネルギー基礎	1					1	
		環境科学	1					1	
		環境保全工学	1			1			
	情報・制御群	ロボットシステム	1					1	
		電子計測制御	1					1	
		情報・制御基礎	1		1				
		コンピュータ化学	1			1			
	材料科学群	空間情報工学	1		1				
		機械材料	1				1		
		電気電子材料	1		1				
		センサ材料工学	1					1	
		有機・高分子材料	1		1				
		#建設材料	1					1	
	修得単位計		2以上			2以上			
	修得単位計		3以上			3以上			
	学際カリキュラム除く				20以上	23以上	23以上		
	学際カリキュラム含む		86以上	6	11	69以上			
修得単位合計									

*：学際連携科目 #：専門選択科目に単位振替可能（単位の付与は学際カリキュラム科目又は専門選択科目のいずれか一方とする）

平成31年度 福井工業高等専門学校 編 入 学 願 書

		受 検 番 号		※		
志 望 学 科		工 学 科				
志 願 者	ふりがな 氏 名		生 年 月 日	平成 年 月 日	性 別	男・女
	現 住 所	〒 電 話 () -				
	在籍 (出身) 学 校 ・ 科	学 校 名	平成 年 月 卒業・卒業見込		検定料振込受付 証明書 (貼付場所) ○検定料振込受付 証明書には金融機関 の振込受付印が必 ず必要です。 ○検定料振込受付 証明書は枠内に、 はがれないように しっかり糊付けして ください。	
		所 在 地	〒			
	高等学校等 卒業後の経歴					
ふりがな 氏 名		続 柄				
保 護 者	現 住 所	〒 電 話 () -				

(記入上の注意)

- (1) 黒のペン又はボールペンで記入してください。
- (2) 「※印」欄は、記入しないでください。
- (3) 文字はかい書で、数字は算用数字で、ていねいに記入してください。
- (4) 志願者の氏名及び生年月日は、戸籍に記載されている字体及び生年月日を本人が記入してください。
- (5) 「性別」欄は、該当する性別を○で囲んでください。
- (6) 「在籍 (出身) 学校・科」欄の卒業及び卒業見込には、該当する文字を○で囲んでください。
- (7) 「保護者」欄は、保護者が自筆してください。

受検番号	※
------	---

推 薦 書

平成 年 月 日

福井工業高等専門学校長 殿

所 在 地

学 校 名

校 長 氏 名

職印

下記の者は、貴校への編入学にふさわしいものと認め、推薦いたします。

ふりがな				性 別	男 ・ 女	志 望 学 科	工学科
氏 名	平成 年 月 日生						
在籍(出身) 学 校 ・ 科	学 校 科						
学 業 成 績 順 位	第 1 学 年	第 2 学 年		(既卒者のみ) 第 3 学 年			
	人 中 位	人 中 位		人 中 位			
推 薦 理 由							
記載責任者氏名				印			

(記入上の注意)

- (1)「※印」欄は、記入しないでください。
- (2)「性別」欄は、該当する文字を○で囲んでください。
- (3)「学業成績順位」の「第3学年」欄は、現在第3学年に在学中の場合は、記入の必要はありません。
- (4)「推薦理由」欄は、学業、人物、課外活動、態度等を具体的、簡潔に記入してください。

キ
リ
ト
リ
セ
ン

平成31年度編入学志願者
写 真 票

受 検 番 号	※		
ふ り が な			男 ・ 女
氏 名	平成 年 月 日生		
在 籍（出身） 学 校 ・ 科	学 校		科
写 真 欄 (1) 写真は、平成30年4月以降に撮影したもの。 (2) 正面向き、上半身、脱帽のもの。 (3) 縦6cm、横4.5 cmのもの。 (4) この枠内に、のりではがれないように貼ってください。			

キ
リ
ト
リ
セ
ン

（切り離さないこと）

福井工業高等専門学校

平成31年度編入学志願者
受 検 票

受 検 番 号	※		
ふ り が な			男 ・ 女
氏 名	平成 年 月 日生		
在 籍（出身） 学 校 ・ 科	学 校		科
学力検査等期日	平成30年9月8日(土)		
検 査 時 間			
専 門 科 目	9：00～10：40		
数 学	11：00～12：20		
英 語	13：10～14：00		
作 文	14：15～14：55		
面 接	15：25～		
備 考 (1) 「※印」欄は、記入しないでください。 (2) 本票は、学力検査及び面接の受検の際には、必ず携帯してください。 (3) 裏面の受検者心得は、事前によく読んでおいてください。			

福井工業高等専門学校

(受検票裏面)

受 検 者 心 得

- (1) 受検者は、9月8日(土)午前8時30分までに、学力検査室(専攻科棟)に集合してください。
- (2) 各学力検査科目及び面接の開始時刻に、遅れないようにしてください。検査開始後、20分を経過した場合は、原則として受検できません。また、1科目でも受検しないと受検資格を失います。
- (3) 学力検査室では、受検票、黒鉛筆、シャープペンシル、シャープペンシルの芯、消しゴム、鉛筆削り、時計以外の物は、机の上に置いてはいけません。
- (4) 計算機能及び通信機能付きの時計は、学力検査室に持ち込んではいけません。
- (5) 検査科目で電卓が必要な場合は、貸与します。
- (6) 上履きは、必要ありません。

平成31年度 福井工業高等専門学校 入学検定料 振込依頼書

下記の注意事項をご覧のうえ、太枠内を記入のうえ最寄りの金融機関から振り込みください。

【注意事項】

- ① 志願者本人の氏名並びにフリガナを記入してください。

② 必ず窓口で払い込み、ATM（現金自動振込機）は利用しないでください。

③ 「検定料振込受付証明書」は、金融機関の「振込受付日附印」が押印されていることを確認し、入学願書の所定の欄にしっかりとりのり付けしてください。

④ 振り込みの際には、所定の手数料が必要となります。

⑤ 「領収証書」は、改めて学校から発行いたしましたので、金融機関発行の「振込受取書・振込受付書」を大切に保管してください。

⑥ ゆうちょ銀行から他の金融機関への振込は口座からのみ可能で、現金による振込は出来ません。ご利用の際は、『志願者名義の通帳とお届け印』が必要です。
- ゆうちょ銀行から他の金融機関への振込は募集要項に添付されている振込依頼書を使用することは出来ません。窓口で「ゆうちょ銀行専用の振込依頼書」を受け取り、記入いただく必要があります。

その場合、ゆうちょ銀行にて以下（下の右端）の「検定料振込受付証明書」（振込依頼人用）」に振込受付印を押印してもらい、入学願書の所定の欄にしっかりとりのり付けしてください。

振込依頼書

平成 年 月 日		電 信 扱		手数料			
福井銀行 鯖江支店		金 額		¥ 1 6 5 0 0			
預金種目	口座番号	現金	金 額	現 金	手 数 料		
普通預金	1164926	内 当 手 帳					
(フリガナ) コウセンキコウホンブ		内 他 手 帳					
(おなまえ)		内 記 帳					
お 受 取 人	高 専 機 構 本 部 様	金 10,000円	0,000	50円			
		金 5,000円	0,000	10円			
		金 2,000円	0,000	5円			
		金 1,000円	0,000	1円			
		金 500円	0,000	合 計			
		金 100円	0,000	つり銭			
ご依頼人 (志願者名)		出納印または振替印					
(整理番号) □□□□							
(フリガナ)							
(おなまえ)							
(おところ)							
鯖江市下司町							

- 右欄の太枠の中だけボールペンで記入ください。
- 必ず金融機関の窓口でお振込ください。

取扱金融機関は必ず整理番号を依頼人名の前に打電してください

振込受取書 (兼手数料受取書)

平成 年 月 日			
金 額	¥ 1 6 5 0 0		
先方銀行	福井銀行 鯖江支店		
預金種目	普通預金	口座番号	1164926
お受取人	おなまえ	高 専 機 構 本 部 様	
ご依頼人 (志願者名)	様		
[備考]	手 数 料		

印 紙
・振込金受取書の場合
振込金 + 手数料
5 万円以上添付
・振込受付書の場合
印刷不要

(取扱店) _____ 銀行 _____ 店
(取扱店→依頼人)

検定料振込受付証明書 (振込依頼人用)

振込金額	¥ 1 6 5 0 0		
先方銀行	福井銀行 鯖江支店		
振込種目	普通預金		
口座番号	1164926		
振込名義	高 専 機 構 本 部		
おなまえ			
おところ			

振込受付印
(取扱店→依頼人→入学願書に添付)

(利用交通機関等)

- (1) 福井鉄道福武線「西鯖江駅」下車，徒歩約20分
- (2) JR「鯖江駅」下車，徒歩約25分，タクシーで約7分
- (3) JR「武生駅」下車，タクシーで約15分

TEL (0778)62-8290 (学生課)
FAX (0778)62-2490 (学生課)
E-mail nyushi@fukui-nct.ac.jp
URL <https://www.fukui-nct.ac.jp/>



Since
1965

Creativity
and
Curiosity

福井高専